

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200395
法人名	社会福祉法人和仁福祉会
事業所名	グループホーム「ぬくもりの家」
所在地	宮城県石巻市大瓜字箕輪17番地
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 5 年 3 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「その人らしくいきいきと」を職員一人ひとり意識しながら支援に当たり、家にいた時と同じ様に生活して頂いている。昨今の、感染症の流行により外出の機会が少なくなり、入居者の皆様には少しでも日々の生活を楽しんで頂きたく、職員間で意見を出し合い新しい行事を作ったり、活動を工夫して皆様が楽しんで頂けるように努めました。また、出来ることはなんでもして頂き、自信につながるように支援しています。入居者の殆どの方がご自身の役割として色々な事を手伝って下さります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR陸前稲井駅から北に1.5Km程の小高い所にある。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス、居宅介護支援事業所がある。行動指針に「その人らしいあり方を大切にします」などの15項目を掲げ、ケアに努めている。縫い物の先生が入居したことからホーム内で手芸教室をしたり、リビングで運動会をしたり、楽しく過ごす工夫をしている。職員は入居者から「頼りにしている」「良くして貰って」などの言葉があり、励みになっている。管理者は「接遇が大事」と職員に入居者や家族、職員間で挨拶をしっかりすることを職員に伝え、明るいホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、必要に応じて支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明し、納得され捺印を頂いている。その他、説明の際、よくある質問も付け加えて説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族様・入居者の皆様にアンケートを実施し、また面会の際も、意見・要望を頂き反映するようにしている。	ホームで実施しているアンケートに、家族から「コロナ禍の制限がある中でも様々な行事を計画していただき感謝している」との言葉があった。入居者からは「外に出たい」「〇〇食べたい」などがあり、対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、意見を出してもらい、より良い運営が出来るよう反映させている。	必要時に随時職員会議を開き、意見を聞いている。「トイレに物品を置く棚を作りたい」や「錠剤が飲みにくい場合用に錠剤を砕く器具が欲しい」などに対応している。育児休暇や介護休暇は取りやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に則り、しっかり行っている。休憩時間、年休もきちんと取れるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も外部での研修は参加出来ていないが、各委員会、職員会議、ケアカンファレンス等で考え意見交換する機会を設けている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は今年度も行っていないが、その分、サービスの向上について、職員一人一人が考えながら取り組んでいる。	協力歯科医から口腔体操の助言を得ている。法人内で身体拘束適正化委員会や事故防止会議、管理者や主任等部署会議を行っている。入居者の体調不良時には法人の看護師からアドバイスを貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの関係を大事にし、話やすい環境を作り、入居後も不安なく過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み頂いた時点から、困っている事、要望を伺い、入居後も相談しながら協力し、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、家族様の困っている事や要望を伺い、当施設で出来る内容が見極め、他のサービスを勧めることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共生していることを心掛け、入居者様と一緒にいる事を大切にしている。また、困ったことを手伝ったり、良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の対応について、家族様と職員で協力・相談しながら支援し、より良い関係を築けるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度も、行き来が難しい状況だった為、手紙や電話でやり取りが出来るよう支援している。また他の方法も考えることとしている。	特養の園長が毎日挨拶に来て顔馴染みになっている。家族と馴染みの床屋に行き、外食をしてくる方がいる。年賀状やグリーティングカードのやり取り、知人や家族との電話のやり取りをする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で居室を訪問しあったり、リビングでの会話を楽しんで頂いている。関係がうまく築けない方は、職員が仲介に入り、スムーズにコミュニケーションをとって頂くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も出来る範囲で様子を見に行くことや、家族様へ近況を確認し、その後の相談・支援が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段とは違った言動等に注意し、不安や希望を聞き取るようにしている。カンファレンスでは、本人の意向、本位を尊重し行っている。	職員は、入居者の「食事量が減った」や「目がキョロキョロしている」などの情報を共有し見守っている。意思疎通の困難な方に「はい」「いいえ」で答えられる質問をする。自宅の様子を心配する方に近所をドライブした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や、入居後も多くのコミュニケーションを図り、バックグラウンドの把握に努め、カンファレンスや支援に活かす様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力をスタッフ一同把握し、情報共有をきちんと行いながら支援に当たっている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは、ご本人の意向や、職員、家族様からの意見を活かしケアプランの見直しをしている。	計画作成担当者は本人や家族、担当職員等の意見でプランを作成し、全職員で話し合い、家族の了解を貰っている。時間や場所を忘れる方にカレンダーの活用や、医師の指示で下剤服用をプランに盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、モニタリング表の記録や、申し送りノートを共有しケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様のニーズに合わせて通院やAI導入等柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も地域資源を利用した支援が出来なかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま利用している。通院が難しい方は、訪問診療を受けられるように支援している。	1名の方が訪問診療医と契約をしている。他はかかりつけ医を受診している。定期受診は家族がバイタル表などを持参し付き添い、緊急時は職員が付き添う。協力歯科医は義歯の不調や痛み等の時来訪する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況に応じ、併設施設の看護師や訪問診療看護師等に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、現在面会が出来ない事もあり、地域医療連携室とまめに情報交換を行い、できるだけ早期退院にむけた相談をしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から意向の確認をしており、状態の変化がみられた際、再度確認を取りながら対応している。重度化した場合、医師、家族を含めた話し合いを行い、住み替えのための支援を行っている。	入居時に「契約書」と「将来についての意向確認書」で終末期の過ごし方を確認し、看取りはしない事を説明し、了解を得ている。特養や医療機関への移行までの間、特養の看護師の協力を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予測される入居者個々々に対応・連絡のマニュアル作成し、家族様とともに確認している。また、特変時の対応のマニュアルを電話の近くに貼り、見ながら対応できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設施設との避難訓練、毎月の図上訓練でシュミレーションを行い実際に備えている。	法人合同で夜間訓練を含む年2回の訓練を行った(机上訓練含む)。居室入口の花飾りを廊下に落とす事で避難済としている。スプリンクラー点検は業者が行っている。備蓄品は3日分準備がある。訓練の反省記録がない。	昼、夜間を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につける為にも、ホーム独自の訓練を行っていたきたい。反省を記録に残し、次の訓練に活かすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、失礼のないような言葉遣い・接遇を意識している。トイレ、入浴支援でも恥ずかしさを感じない様に関わっている。	名前は「～さん」で呼んでいる。1人だけ本人と家族の希望で「～ちゃん」と呼んでいる。介助時には「急がせず、ペースを守る」「自分で出来ることはして貰う」「自分がされて恥ずかしい事はしない」等を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのスタッフにも話やすい雰囲気を作り、何でも話せる関係を築いている。また、日常生活においても自己選択できる場面を多く作り、希望通りの生活をして頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、したい時にしたいことが出来、強制することなく伸び伸びと生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容を利用したり、ヘアカラーを楽しまれる方も多いです。一人ひとりの好みに合わせたおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けまで皆さんと行います。また、誕生日には、ご本人様の好物を提供しています。行事食も季節を意識して頂けるように工夫しています。	献立は管理栄養士が作る特養の献立を参考に作成している。季節感や入居者の好み、野菜を多く、彩りよく等に配慮している。寿司やラーメン、弁当が食べたいに出前を取って応えた。代替食や刻み食に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士に献立をチェックして頂き、栄養バランスの摂れた食事の提供を行っている。食事量は、本人希望で少なめの方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、ご自身で行って頂きます。見守り・介助が必要な方は、リビング脇の洗面台にて行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのタイミングに合わせて介助に入るようにしており、声掛けも失礼のないように徹底している。排泄グッズもその方の状態に合わせてものをその都度検討・話し合いをしている。	ソワソワしているや立ち上がったたりするなどの時に声を掛けている。夜間オムツの方も日中は職員の声がかけてトイレに行っている。担当職員の申し出で職員会議を開き、排泄用品やケアの方法など話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の活動での運動を増やしたり、歩行運動を取り入れている。また、水分補給や、食べ物を工夫し便秘予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望・タイミングで入浴出来るよう声掛けをしている。入浴中は、職員と会話を楽しくして下さる入居者様が多いです。	1日おきに午後に入浴している。入浴中は幼いときの事や戦争時の事、夫の事など話している。入浴中に歌を歌う方に、カラオケ大会で歌ってもらった。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も皆様のペースで休んで頂き、夜間帯も眠れない時などは、温かい飲み物を提供したり、話し相手をするもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用が確認できる専用ファイルを作成し、職員一人ひとり繰り返し確認している。服薬時は声出して日付、食事ごとの確認を行い記録にも残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に日課にしていた事や、得意な事、趣味等を活動に取り入れている。また、楽しみ事は定期的に気分転換を図れるよう企画、実施している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナにより希望通りの外出はなかなか出来ませんが感染対策を十分に行い、ドライブに出掛けたりしています。収束後は積極的に支援したいと思います。	暖かい日には敷地内のベンチなどで外気浴をしたり、散歩をしている。感染対策をして車で近くの神社に初詣に行った。近所の季節の花を楽しめる場所へドライブしている。毎年、入居者の部屋から見える筍を採りに行き、筍ご飯にし、楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは金庫にて管理し、希望がある時は、ご本人が欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話でお話して頂いたり、季節の挨拶のハガキ、近況報告のお手紙を出せるように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に季節を感じて頂ける掲示物を工夫しています。	リビングは天窓から光が入り明るい。湿度は加湿器や濡れタオルで加湿し、入居者が昼寝中に換気している。壁には季節毎に、お雛様や入居者と一緒に行った桜の塗り絵、紙で作った鯉のぼりなどを飾っている。朝、入居者と一緒掃除をし、消毒もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室前や廊下の椅子に腰かけ、掲示物を楽しんで頂いたり、一人の時間を楽しんで頂いたり、入居者同士で会話を楽しめる環境づくりをしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の部屋となるべく変わらない様に、たんす、仏壇、TV、こたつ等、馴染みのものを置くことで安心して生活して頂いている。	家族の協力を得て、入居前の自室に有った物を持ち込んでいる。写真や仏壇、化粧品、テレビ、炬燵などを持ち込んでいる。仲の良い入居者とおしゃべりをしたり、手芸をしたり、テレビを見たり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の皆様が分かりやすいように、トイレ、居室の表示、浴室の暖簾、カレンダーを使用し自立した生活を送れるよう工夫している。		